

台湾報告書

R12-074 村上 智裕

この度の、2013 YPU Summer School of Chinese Culture Learning & Healthcare Industry Site Visit Programにおいて、私自身としても、学校自体としてもはじめてのことであったので、一から準備しなくてはなりませんでしたが、しかし、引率してもらった遠山先生、富高先生、ほか各先生方、事務員の方、一緒に参加した仲間のおかげで本当に有意義な11日間を過ごせたと思います。

個人としては、海外に行くことやサマースクールに参加することなど初めての経験が多く、自分のこれからの糧として、多くのことを学べたと思います。台湾で過ごしたこととしては、本当にたくさんのプログラムを台湾の生徒が考えていてくれて、また愉快地楽しく温かいおもてなしもあり、非常に有意義な11日間を過ごせました。台湾の学生の中でも、日本語を理解し話せる学生は1, 2人しかいませんでしたが、お互いがジェスチャーやほんの少しの英語を駆使しながらうまくコミュニケーションをとり、楽しい日々を送りました。サプライズでの誕生日パーティーや毎日のようにホテルの部屋にみんな集まって、トランプゲームや麻雀するなど、休む暇がないほどとても内容として濃い毎日を過ごしました。

また、日本からは国際医療福祉大学の学生も来ていて、台湾の学生だけでなく、日本のほかの医療大学とも交流ができ、たくさんコミュニケーションをとることができました。医療関係のプログラムとしては、講義や病院見学を通じて台湾の医療事情をたくさん学ぶことができました。病院見学の際には、放射線科の病棟などを見学させてもらい、遠山先生の補足説明も聞きながら、知識を深めることができました。

具体的に、中国文化講座と日常の食事について私の感じたことを書きたいと思います。中国文化講座としては、テープを使ったアート体験、中国式の書道、新竹市内を巡ったり、太極拳の護身術を学んだりしました。テープを使ったアートでは、バツタを作りました。先生のやり方を見ていてもなかなかできず、僕の作ったバツタは、バツタとは遠く離れたものになってしまいました。うまくできた人たちは、それぞれにアレンジを加え、よりよいものに仕上げていました。書道では、点やはらいなどの基本的な書き方を教わり、実際に書いて練習しました。最後は、先生直筆で自分の名前を書いてもらいました。町を巡ったときは、寺院におとずれて儒教の教えを学び、屋台でおいしい昼ごはんや、アイスクリームを食べたり、最後は消防署に行き、煙がたちこめる暗闇の中を脱出する体験をしたりと食文化や宗教、身の回りに関することを教わることができました。太極拳では、よく公園でやっている人をみかける体操から、痴漢などに襲われた時の護身術まで教わることができました。個人としては、殴りかかれたときの護身術が心に残っています。殴りかかる役をして何をするのかを言われないうちに先生に投げられ、

痛かったです。日々の食事としては、白米がでないと思っていましたが、ホテルでの朝食、大学での昼食、夕食とどの食事においてもほぼ白米はおいしくいただきました。基本的に油が多く、老人ホームであっても少油ということを書きながらどう見ても油が多く、みんなが文句を言っていました。個人の意見としては、油が多かったけど、野菜を使った料理も多かったし、何しろすべての食事に肉があったことがよかったです。肉料理があったものの、魚料理は11日間で2回しかできませんでした。また、辛い物、味の濃いもの、味の薄いものなど、味に関しては極端なものが多かったので、おなかをこわす可能性も否定できません。たくさん料理が出されるので、残してはいけないと思わず、無理をしない程度に食べたほうが良いと思いました。観光地に行くとたくさんの食べ物屋さんがあったので、日本では食べることのできないものをたくさん食べることができました。

最後に、2013 YPU Summer School of Chinese Culture Learning & Healthcare Industry Site Visit Programに関係されたすべての方々に感謝しています。
ありがとうございました。

